

令和8年度
全国学力・学習状況調査結果における土別市の成果・課題について
【令和8年9月25日 土別市教育委員会（学校教育課）】

本市では、今年度においても全国学力・学習状況調査を、全ての小・中学校（小学校5校、中学校4校）で実施しました。（端末を使ったオンライン調査は学校ごとに文科省からの指定日に実施しました。）

本調査結果から今後の学習指導の改善を図るため、文部科学省国立教育政策研究所（以下「国研」）提供の「令和8年度全国学力・学習状況調査の概要」及び「土別市の結果」に基づき、土別市教育委員会として次のとおり分析結果をまとめました。

（調査問題及び解答は国研HPに掲載されています。）

1 調査の目的

国が示した本調査の目的は、次のとおりです。

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 本調査実施に関する土別市教育委員会の基本的な考え方

土別市教育委員会は、本調査の目的を踏まえ、定められた方法に従って調査を実施しました。

- (1) 調査は、これまで各学校がそれぞれの計画に基づいて実施している標準学力調査などと同様に、通常のエ育活動の一環として実施しました。
- (2) 調査結果は、児童生徒の学力の一端であり、本調査により測定できるのは、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを踏まえる必要があります。そこで、学校の序列化や過度な競争につながらないよう配慮する視点から、各学校ごとの結果は公表はせず、土別市における学力傾向を明確化し、今後の授業改善等に資するために、土別市全体としての数値結果を公表します。
- (3) 教育委員会と各学校は、児童生徒の学力・学習状況のそれぞれの課題を把握・検証することによって、より適切かつ充実した教育活動を推進します。

3 調査事項・実施日程

	調査事項	実施方式	日程
教科 調査	(小) 国語・算数 (中) 国語・数学	冊子による筆記方式	4月23日
	(中) 英語 「聞くこと」 「読むこと」「書くこと」	オンライン	4月20日～4月23日
	(中) 英語 「話すこと」	オンライン	4月24日～5月29日
質問 調査	(小) 児童質問紙	オンライン	4月24日～5月 8日
	(中) 生徒質問紙	オンライン	4月20日～4月23日
	学校質問紙	オンライン	4月 1日～4月17日

4 調査対象 (1) 小学校 第6学年 (2) 中学校 第3学年

5 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査は（国語、算数・数学、英語）

英語については、生徒が活用するICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステムによるオンライン方式（以下「CBT」（= Computer Based Testing）という。）で実施。

出題内容はそれぞれ次の(ア)と(イ)を一体的に問うものです。

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

② 質問紙調査 ※小学校、中学校ともに1人1台端末を用いてCBTで実施

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

本年度の主な調査項目は以下のとおりです。

- ・ 基本的生活習慣等
- ・ 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- ・ 学習習慣、学習環境等
- ・ 地域や社会に関わる活動の状況等
- ・ ICTを活用した学習状況
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳
- ・ 学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語、算数・数学、英語）
- ・ 各教科に関する解答状況

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査

本年度の主な調査項目は以下のとおりです。

- ・ 学校規模の状況
- ・ 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- ・ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・ 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法
- ・ 教科の指導方法（国語、算数・数学、理科、英語）
- ・ ICTを活用した学習状況
- ・ 特別な配慮が必要な児童生徒への指導
- ・ 小学校教育と中学校教育の連携
- ・ 家庭や地域との連携等
- ・ 家庭学習
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果の活用

6 本市の参加状況

令和8年度の参加状況

	小学校		中学校		総 数	
	学校数 (校)	児童数 (人)	学校数 (校)	生徒数 (人)	学校数 (校)	児童生徒数 (人)
国 語	5	75	4	102	9	177
算数・数学	5	75	4	103	9	178
英 語			4	101	4	101

7 教科に関する調査の結果

令和8年度の調査結果 国語、算数・数学は平均正答率

英語は、4技能（聞くこと、読むこと・書くこと、話すこと）の平均正答数（問題数は9問）とIRTスコア

	小学校		中学校			
	国語	算数	国語	数学	英語	
					平均正答数	IRTスコア
全 国	60.9	56.4	63.9	57.0	4.5	499
北海道	60	54	63	55	4.2	490
士別市	62	58	66	59	4.2	491

全国値：黒字 全国値以上：青字 全道値以上：緑字 全国値以下：赤字

*1：全国の数値は国研の提供データ（公立学校のみ）

*2：北海道の数値は道教委の提供データ（公立学校のみ）

*3：中学英語の数値は、平均正答数とIRTスコア集計値

※以下使用しているデータは全て*1～3と同様

8 士別市の学力調査の結果について

(1) 全体として

小学校では、全道（札幌市を除く）の平均正答率〈以下「全道平均」と表記〉及び全国平均正答率〈以下「全国平均」と表記〉を国語・算数ともに上回りました。

中学校では、国語・数学ともに全道平均・全国平均を上回り、英語は平均正答数及びIRTスコア集計値でほぼ全道平均並みでしたが、全国平均は下回りました。

参考値として国語・算数（数学）について令和7年度の調査データを比較する形で掲載しました。また、令和8年度の中学3年生は、令和5年度の小学6年生時に本調査を実施しているので、経年比較のため掲載しています。

なお、国研では年度ごとの各教科設問の「難易度の調整はしていません。」と説明しています。（令和8年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会より）

【令和7年度調査と令和8年度調査の結果比較（小学校）】

	平均 正答率	小学校（国語）		小学校（算数）	
		R7	R8	R7	R8
全 国	%	66.8	60.9	58.0	56.4
北海道	%	65.4	60	55.2	54
士別市	%	68.2	62	58.8	58

【令和7年度調査と令和8年度調査の結果比較（中学校）】

	平均 正答率	中学校（国語）		中学校（数学）	
		R7	R8	R7	R8
全 国	%	54.3	63.9	48.3	57.0
北海道	%	54.0	63	46.7	55
士別市	%	55.3	66	50.8	59

【令和5年度の小学6年と令和8年度の中学3年の正答率を比較】

	平均 正答率	国 語		算数・数学	
		R5	R8	R5	R8
全 国	%	67.2	63.9	62.5	57.0
北海道	%	65.7	63	61	55
士別市	% (全国差)	71.9 (+4.7)	66 (+2.1)	68.4 (+5.9)	59 (+2.0)

(2) 令和8年度 士別市小学校（5校）の調査結果について

①【国語の結果】

		士別市	北海道	全 国
国語（全問題）の正答率		62	60	60.9
内 容 別	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	66.0	65.9	66.8
	(2)情報の扱い方に関する事項	52.7	51.0	52.3
	(3)我が国の言語文化に関する事柄			
	話すこと・聞くこと	70.7	64.4	65.8
	書くこと	46.0	43.2	45.7
	読むこと	67.3	65.0	65.9
問題別	選択式	63.0	60.4	61.9
	短答式	63.3	62.3	62.6
	記述式	57.3	53.4	54.9

本年度の国語の調査結果は全道平均を2ポイント程度、全国平均を1ポイント程度上回りました。学習指導要領の内容別の正答率では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の内容で、全国平均を上回っていますが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を下回っています。

②【算数の結果】

		士別市	北海道	全 国
算数（全問題）の正答率		58	54	56.4
領 域 別	数と計算	60.2	58.2	61.1
	図 形	59.0	51.8	55.3
	測 定	84.0	76.4	78.1
	変化と関係	44.4	38.1	41.1
	データの活用	47.0	45.6	48.6
問題別	選択式	55.7	54.4	56.0
	短答式	64.5	56.6	59.7
	記述式	43.1	44.5	48.5

本年度の算数の調査結果は全道平均を4ポイント程度、全国平均を2ポイント程度上回っていますが、学習指導要領の領域別では、「数と計算」「データの活用」の領域で全国平均を下回っています。問題別では、他の出題形式と比較して、記述式の正答率が全道平均・全国平均より低くなっており、依然として課題傾向です。

(3) 令和8年度 士別市中学校（4校）の調査結果について

①【国語の結果】

		士別市	北海道	全 国
国語（全問題）の正答率		66	63	63.9
内 容 別	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	65.7	61.9	63.0
	(2)情報の扱い方に関する事項	70.6	69.0	70.4
	(3)我が国の言語文化に関する事項			
	話すこと・聞くこと	63.1	63.1	63.9
	書くこと	73.2	68.2	67.4
	読むこと	58.8	59.0	59.7
問題別	選択式	72.7	71.8	72.7
	短答式	61.1	55.5	55.8
	記述式	49.0	45.5	45.5

本年度の国語の調査結果は、全道平均・全国平均を2ポイント程度上回りましたが、学習指導要領の内容別では「話すこと・聞くこと」「読むこと」が全国平均を下回っています。問題別では、昨年度は記述式において、若干全国平均を下回りましたが、今年度は、短答式と記述式が全国平均を上回っています。

②【数学の結果】

		士別市	北海道	全 国
数学（全問題）の正答率		59	55	57.0
領 域 別	数と計算	68.7	66.2	67.8
	図 形	49.5	47.9	48.7
	関 数	56.0	50.7	54.8
	データの活用	56.8	51.3	53.5
問題別	選択式	59.9	58.0	59.3
	短答式	66.1	61.8	64.2
	記述式	40.5	37.3	39.1

本年度の数学の調査では、全道平均を4ポイント、全国平均を2ポイント程度上回っています。学習指導要領の領域別では、全ての領域で全国平均を上回りました。問題別では、昨年度は記述式において、全国平均を1ポイント程度下回りましたが、今年度は、全ての解答方式で全国平均を上回っています。

③【英語の結果】

(ア) CBTについて

令和8年度の中学校英語調査問題にはCBT(Computer-based Testing)が導入されて、1人1台端末を活用したオンライン方式で実施されました。CBTの利点を活かすことで、場面や状況に応じたイラストやアニメーション等と音声を組み合わせた出題が可能となりました。

(イ) IRTについて

令和8年度の中学校英語調査問題にはIRT (Item Response Theory：項目反応理論) が導入されました。IRTはテストの難易度や受験者の能力を考慮して、より正確に能力を評価するための理論です。IRTでは、各問題の特性と受験者の解答を分析することでより正確に推定することができます。

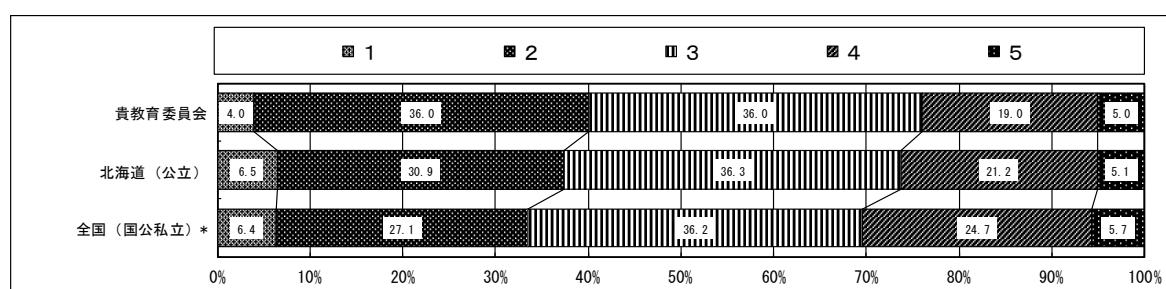
(ウ) 「IRTスコア」・「IRTバンド」について

令和8年度の中学校英語調査問題では、全4技能について、調査が行われました。IRTスコアは、問題の難易度、正誤パターンの状況から推定し、500を基準とした得点で表示されます。

IRTバンドは、IRTスコアを1～5の段階で区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

	士別市	北海道（公立）	全国（公立）
中学英語4技能の平均正答数	4.2／9	4.2／9	4.5／9
中学英語IRTスコア集計値	491	490	499

IRTスコア（1～5）の分布比較



(エ) 英語の出題状況

本年度の中学英語における出題状況は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」については、公開問題16問と非公開問題12問が用意されました。公開問題のうち、受験者に共通出題されたのは7問で、残りの公開問題9問からランダムに3問出題されました。「話すこと」については、公開問題が全7問用意され、非公開問題として数問が用意されました。公開問題のうち、全員が取り組む問題は2問で、残りの5問からランダムに2問出題されました。

(オ) 士別市の状況

平均正答数、IRTスコア集計値ともにほぼ全道値と同じで、全国平均以下です。
またIRTスコアの分散状況は全国・全道に比較して標準スコア2が占める割合が高く（36.0%）なっています。

9 質問紙調査の結果について

質問紙調査の結果は、例年同様多くの質問項目（児童・生徒質問紙80項目程度、学校質問紙90項目程度）があり、その中から北海道教育委員会が『調査結果のポイント』（令和8年8月3日）で取り上げている質問項目について士別市と比較しています。また、学校質問紙は士別市の学校数が小学校5校、中学校4校と分母が小さいので、結果は参考値として押さえ、%の提示とともに学校数（○/○校）を掲載しています。（**全国値以上：青字 全国値以下：赤字**）

(1) 授業改善について

児童・生徒質問紙No.39（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 *「当てはまる」と回答した割合	小学生	28.3%	29.7%	28.9%
	中学生	27.0%	27.9%	28.7%

児童・生徒質問紙No.40（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか *「当てはまる」と回答した割合	小学生	26.9%	27.9%	43.4%
	中学生	23.1%	23.5%	25.7%

児童・生徒質問紙No.42（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	43.5%	46.1%	50.0%
	中学生	39.6%	41.7%	43.6%

児童・生徒質問紙No.43（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	31.4%	31.6%	31.6%
	中学生	29.3%	29.9%	30.7%

・北海道教育委員会が『調査結果のポイント』として取り上げた授業改善に関する4項目について、士別市では、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、すべて全国平均値を上回っています。このことから、授業改善に対する各学校の意識の高さがうかがわれます。

(2) ICTを活用した学習状況について

児童・生徒質問紙No.35（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。 *「ほぼ毎日」と回答している児童生徒の割合	小学生	43.0%	52.8%	79.0%
	中学生	55.1%	61.3%	92.1%

児童・生徒質問紙No.36－3（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。 *「そう思う」と回答している児童生徒の割合	小学生	32.8%	34.9%	48.7%
	中学生	32.0%	35.5%	44.6%

児童・生徒質問紙No.36－4（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますと思いますか。 *「そう思う」と回答している児童生徒の割合	小学生	44.9%	53.2%	68.4%
	中学生	46.4%	53.8%	51.5%

・児童・生徒質問紙No.35「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」では、「ほぼ毎日」と回答した士別市の児童生徒は、全道・全国と比べ非常に高い割合です。このことから、授業でICT機器が日常的に活用されていることがわかります。
--

(3) 学習習慣について

児童・生徒質問紙No.22（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 *「できている」と回答した割合	小学生	28.7%	28.4%	35.5%
	中学生	27.4%	27.4%	26.7%

児童・生徒質問紙No.23（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。 *「1時間以上勉強する」と回答した割合	小学生	49.9%	46.0%	39.5%
	中学生	61.6%	52.8%	47.5%

児童・生徒質問紙No.4（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。 *「1時間以上視聴する」と回答した割合	小学生	78.5%	82.5%	77.6%
	中学生	91.8%	93.0%	92.0%

・ 児童・生徒質問紙No.23「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、「1時間以上勉強する」と回答した士別市の児童生徒の割合は、全国平均より、10%以上低くなっています。よりよい家庭学習の取組ができるように指導していくことが課題です。

(4) 検証改善サイクルについて

学校質問紙No.17（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。 *「確立している」と回答した割合	小学校	42.5%	56.9%	80.0% (4/5)
	中学校	38.6%	57.3%	75.0% (1/4)

・ 学校質問紙No.17「児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか」では、「確立している」と回答した士別市の学校は、全国・全道より、非常に高い割合です。

(5) ウェルビーイングの向上について

児童・生徒質問紙No.8（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 自分には、よいところがあると思いますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	43.6%	42.3%	52.6%
	中学生	41.0%	42.9%	32.7%

児童・生徒質問紙No.9（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	53.4%	56.5%	63.2%
	中学生	46.7%	48.7%	52.5%

児童・生徒質問紙No.10（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 将来の夢や目標を持っていますか。 * 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	58.6%	59.6%	64.5%
	中学生	37.4%	38.4%	35.6%

児童・生徒質問紙No.11（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。 * 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	47.3%	48.4%	52.6%
	中学生	40.8%	40.4%	29.7%

児童・生徒質問紙No.16（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。 * 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	31.9%	32.3%	40.8%
	中学生	32.0%	31.1%	29.7%

児童・生徒質問紙No.33（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。 * 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	31.9%	33.8%	35.5%
	中学生	22.1%	21.9%	19.8%

・ ウェルビーイングの向上に関する全質問項目において「当てはまる」と回答した士別市の児童生徒の割合は、全国及び全道の傾向と同様で、小学生に比べ、中学生が低い状況です。

(6) 教科への興味・関心、理解度について

児童・生徒質問紙No.53（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 国語の勉強は好きですか。 * 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	24.4%	26.1%	25.0%
	中学生	22.3%	24.4%	22.8%

児童・生徒質問紙No.54（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・ 国語の授業の内容はよく分かりますか。 * 「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	36.1%	36.8%	26.3%
	中学生	27.1%	28.0%	34.7%

児童・生徒質問紙No.61（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・算数（数学）の勉強は好きですか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	33.9%	31.6%	38.2%
	中学生	28.8%	27.5%	23.8%

児童・生徒質問紙No.62（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・算数（数学）の授業の内容はよく分かりますか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	41.9%	37.2%	44.7%
	中学生	34.6%	32.7%	32.7%

児童・生徒質問紙No.70（小・中共通）		全 国	北海道	士別市
・英語の勉強は好きですか。 *「当てはまる」と回答している児童生徒の割合	小学生	37.8%	40.3%	40.8%
	中学生	24.6%	24.3%	26.7%

・児童・生徒質問紙No.54「国語の授業の内容はよく分かりますか」において、士別市の小学生の「当てはまる」と回答した割合が、全国・全道平均を大きく下回っています。「当てはまる」と回答した中学生の割合は、全国・全道平均を上回っています。

(7) 令和7年度調査で見られた傾向や課題について

① ウェルビーイングの向上について

令和7年度調査では、小学生の「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはよくある児童が少ない。」という課題が見られました。

【児童質問紙 R7年度 No.15 R8年度 No.21 】					
・普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。					
選 択 肢		R7年度		R8年度	
		士別市	全国	士別市	全国
1	よくある	46.2%	54.5%	61.8%	54.7%
2	ときどきある	48.4%	38.5%	34.2%	37.8%
3	あまりない	4.3%	6.1%	2.6%	6.1%
4	まったくない	1.1%	0.8%	0.0%	0.7%

・「よくある」と回答した児童は、令和7年度より16%程度増加しています。 ・「あまりない」「まったくない」と回答した児童は、令和7年度より減少しています。 *令和8年度は、「幸せな気持ちになることは、よくある」と回答した児童が増加しよい傾向ですが、ウェルビーイングの向上は継続的な課題です。

② 平日のICTを活用した学習について

令和7年度調査では、小学生の「学校の授業時間以外に、ICTを学習に活用している時間が少ない」という課題が見られました。

【児童質問 R7年度 No.18 R8年度 No.24】					
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除く）					
選 択 肢		R7年度		R8年度	
		士別市	全国	士別市	全国
1	3時間以上	1.1%	4.0%	0.0%	2.1%
2	2時間以上、3時間より少ない	4.3%	4.6%	3.9%	2.8%
3	1時間以上、2時間より少ない	11.8%	11.0%	9.2%	8.5%
4	30分以上、1時間より少ない	14.0%	22.9%	26.3%	21.2%
5	30分より少ない	39.8%	32.0%	27.6%	31.2%
6	全く使っていない	29.0%	25.4%	22.4%	23.3%

・学習にICT機器を使う時間が30分未満の児童の割合は、令和7年度は、69％程度で、全国平均より12％程度上回っていました。令和8年度では50％の割合となり、昨年度より大きく減少しています。

***それぞれの児童の学習のスタイルにより、家庭学習でのICT機器の使い方は、違いが生まれますが、「全く使っていない」の回答した児童が22％程度いることから、平日の家庭学習でのICT利用が継続課題となっています。**

③ 平日の家庭学習時間について

令和7年度生徒質問紙調査では、中学生の「平日の家庭学習時間が少ない」という課題が見られました。

【生徒質問 R7年度 No.17 R8年度 No.23 】					
・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
選 択 肢		R7年度		R8年度	
		士別市	全国	士別市	全国
1	3時間以上	4.3%	9.9%	5.0%	8.9%
2	2時間以上、3時間より少ない	13.0%	20.9%	5.9%	21.2%
3	1時間以上、2時間より少ない	16.3%	30.8%	36.6%	31.5%
4	30分以上、1時間より少ない	32.6%	19.1%	29.7%	19.5%
5	30分より少ない	20.7%	11.3%	12.9%	11.5%
6	全くしない	13.0%	7.7%	8.9%	6.9%

・学校の授業時間以外に、普段1時間以上勉強している生徒の割合は、士別市では令和7年度は34％程度でした。全国平均は62％程度で、士別市は全国平均を大きく下回っていました。令和8年度では48％程度となり、令和7年度の割合を大きく増加しました。しかし、全国平均は62％程度で、士別市は依然として、全国平均を下回っています。

*** 中学生の平日の家庭学習時間の確保が継続課題となっています。**

10 クロス集計（児童生徒質問紙と各教科）について

クロス集計とは児童生徒質問紙の質問項目と各教科正答率の結果を相関させて集計したものです。国研より提供の項目のクロス集計から、士別市において質問と正答率に顕著な相関がある項目について取り上げています。

士別市の小学生・中学生の正答率は各教科ともに全国平均を越えています。このクロス集計では士別市の正答率を上回る数値は**紫太字**で表記しています。

相関関係が高く見えるものでも、対象となる児童生徒数が少ない場合は、参考値として扱っていません。

再掲【令和8年度 各教科の平均正答率、IRTスコア】

	小学校		中学校			平均正答率・(IRTスコア)
	国語	算数	国語	数学	英語	
全 国	60.9	56.4	63.9	57.0	4.5	・ (499)
北海道	60	54	63	55	4.2	・ (490)
士別市	62	58	66	59	4.2	・ (491)

(1) 朝食の摂取について

質問No.	・朝食を毎日食べていますか					
小 1						
中 1						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	している	64	86.5	64.2	58.2	
2	どちらかといえば、している	7	9.5	58.2	54.5	
3	あまりしていない	3	4.1	35.9	54.2	
4	全くしていない	0	0.0			
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	している	72	71.3	68.4	62.2	503
2	どちらかという、している	16	15.8	65.8	59.8	476
3	あまりしていない	10	9.9	50.8	47.7	472
4	全くしていない	3	3.0	66.7	22.9	411

・朝食を毎日食べている児童生徒ほど、正答率が高くなっています。

(2) メディアとの接触時間について

質問No.	・ 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）でSNSや動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）					
小 4						
中 4						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	4時間以上	20	27.0	67.7	56.9	
2	3時間以上、4時間より少ない	7	9.5	58.2	47.3	
3	2時間以上、3時間より少ない	13	17.6	55.0	56.7	
4	1時間以上、2時間より少ない	17	23.0	61.1	56.6	
5	30分以上、1時間より少ない	9	12.2	61.5	63.9	
6	30分より少ない	6	8.1	69.2	61.5	
7	スマートフォン等を持っていない	2	2.7	69.2	78.1	
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	4時間以上	37	36.6	60.4	49.5	467
2	3時間以上、4時間より少ない	27	26.7	73.1	67.8	507
3	2時間以上、3時間より少ない	18	17.8	68.5	62.5	513
4	1時間以上、2時間より少ない	11	10.9	68.0	65.6	520
5	30分以上、1時間より少ない	4	4.0	78.3	76.6	541
6	30分より少ない	4	4.0	53.3	45.3	431
7	スマートフォン等を持っていない	0	0.0			

・小学生においては、メディアとの接触時間が少ない層で、正答率が高くなっています。
 ・中学生においては、メディアとの接触時間が、4時間以上の層で、正答率が低くなっています。

(3) 家庭での子どもの悩みの表出の頻度について

質問No. 小 7 中 7		・ 学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか			
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)	
				国語	算数
1	ほぼ毎日	13	17.6	70.4	66.3
2	週に1～2回	15	20.3	61.0	60.8
3	月に1～2回	13	17.6	64.5	59.1
4	年に1～2回	10	13.5	75.4	63.1
5	ほとんど、または、全くない	18	24.3	53.0	49.3

中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	ほぼ毎日	13	12.9	61.2	52.3	477
2	週に1～2回	26	25.7	70.8	66.8	493
3	月に1～2回	21	20.8	71.1	63.7	529
4	年に1～2回	18	17.8	67.8	58.0	506
5	ほとんど、または、全くない	21	20.8	59.7	54.8	466

・「学校での悩みを親や家族と話すことがほとんどない、または、全くない」を選択した層では、小学生、中学生ともに正答率は、低くなっています。

(4) 自己肯定感について

質問No. 小 8 中 8	・自分には、よいところがあると思いますか					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	当てはまる	40	54.1	64.0	57.2	
2	どちらかという、当てはまる	21	28.4	56.8	53.6	
3	どちらかという、当てはまらない	6	8.1	75.6	71.9	
4	当てはまらない	7	9.5	59.3	60.7	
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	当てはまる	33	32.7	70.8	65.2	520
2	どちらかという、当てはまる	48	47.5	67.7	59.8	490
3	どちらかという、当てはまらない	11	10.9	67.3	55.7	478
4	当てはまらない	9	8.9	44.4	41.0	428

・小学生には、はっきりとした傾向は見られませんが、中学生においては、自己肯定感が高いほど、正答率は高くなっています。

(5) 学校以外での学習時間について

質問No. 小23 中23	・学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	3時間以上	1	1.4	38.5	25.0	
2	2時間以上、3時間より少ない	6	8.1	51.3	55.2	
3	1時間以上、2時間より少ない	22	29.7	71.0	65.9	
4	30分以上、1時間より少ない	29	39.2	62.3	58.8	
5	30分より少ない	14	18.9	57.7	49.6	
6	全くしない	2	2.7	50.0	31.3	

中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率（％）・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	3時間以上	5	5.0	72.0	66.3	536
2	2時間以上、3時間より少ない	6	5.9	66.7	61.5	522
3	1時間以上、2時間より少ない	37	36.6	70.4	70.0	539
4	30分以上、1時間より少ない	30	29.7	64.1	55.6	468
5	30分より少ない	13	12.9	61.5	43.3	438
6	全くしない	9	8.9	61.5	43.8	425

・小学生においては、学校の授業時間以外での1日当たりの勉強時間が、「1時間以上、2時間未満」層において、正答率が高くなっています。

→小学生においては、1日当たりの勉強時間が、「2時間以上、3時間未満」と「3時間以上」の層において、正答率は低くなっていることは、家庭学習の内容に問題があることを示していると思われます。

・中学生においては、学校の授業時間以外での1日当たりの勉強時間が、「1時間以上」の層が正答率が高くなっています。勉強時間が「1時間未満」の層と「1時間以上」の層においては、数学と英語、特に英語の正答率においては、明らかな壁があります。

→中学生の1日当たりの勉強時間が「1時間以上」の層と「1時間未満」の層で、明らかな壁があることは、英語の習得には、時間をかける必要があることを示しています。

質問No.	・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）					
小 25						
中 25						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率（%）		
				国語	算数	
1	4時間以上	1	1.4	30.8	37.5	
2	3時間以上、4時間より少ない	0	0.0			
3	2時間以上、3時間より少ない	4	5.4	69.2	59.4	
4	1時間以上、2時間より少ない	25	33.8	65.5	59.3	
5	1時間より少ない	31	41.9	63.0	60.5	
6	全くしない	3	4.1	69.2	43.8	
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率（%）		
				国語	数学	英語IRT
1	4時間以上	3	3.0	84.4	87.5	583
2	3時間以上、4時間より少ない	5	5.0	77.3	78.8	602
3	2時間以上、3時間より少ない	21	20.8	73.3	72.6	545
4	1時間以上、2時間より少ない	30	29.7	67.1	62.9	490
5	1時間より少ない	19	18.8	60.4	55.2	465
6	全くしない	13	12.9	60.0	38.9	412

・学校が休みの日の1日当たりの勉強時間については、小学生では、「1時間以上、3時間未満」の層で、正答率が高くなっています。

・中学生では「2時間以上学習している」層において、正答率が高くなっています。

(6) 保護者の社会経済的背景について

質問No.		・あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）				
小 29						
中 29						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率（％）		
				国語	算数	
1	0～10冊	9	12.2	52.1	47.9	
2	11～25冊	12	16.2	59.6	54.2	
3	26～100冊	35	47.3	64.6	60.7	
4	101～200冊	10	13.5	66.2	61.3	
5	201～500冊	4	5.4	76.9	76.6	
6	501冊以上	2	2.7	61.5	43.8	
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率（％）・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	0～10冊	13	12.9	60.5	49.0	442
2	11～25冊	23	22.8	64.9	56.0	495
3	26～100冊	32	31.7	64.7	56.0	487
4	101～200冊	14	13.9	68.1	66.1	508
5	201～500冊	12	11.9	73.9	70.3	549
6	501冊以上	6	5.9	80.0	80.2	503

・家庭での蔵書数が多いほど、各教科の正答率の高い傾向があります。

→全国学力・学習状況調査と保護者の社会経済的背景（SES：収入、学歴、職業など）には明確な相関関係があり、家庭環境の階層が高いほど子どもの正答率が高くなる傾向が、文部科学省の分析や教育社会学の研究で一貫して確認されています。土別市では、「学校・家庭・地域が一体となって、子どもの学びを引き出す・守る・広げる」取組を推進していきます。

(7) 新聞を読む頻度について

質問No.		・新聞をどれくらい読んでいますか				
小 30						
中 30						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	ほぼ毎日読んでいる	0	0.0			
2	週に1～3回程度読んでいる	4	5.4	53.8	60.9	
3	月に1～3回程度読んでいる	15	20.3	58.5	52.5	
4	ほとんど、または、全く読まない	55	74.3	64.2	58.9	
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	数学	英語IRT
1	ほぼ毎日読んでいる	3	3.0	75.6	70.8	545
2	週に1～3回程度読んでいる	4	4.0	83.3	81.3	512
3	月に1～3回程度読んでいる	20	19.8	68.1	58.2	505
4	ほとんど、または、全く読まない	74	73.3	64.8	58.0	487

・新聞を読む頻度と正答率については、小学生では、はっきりとした傾向は表れていません。

・中学生では、新聞を「ほぼ毎日読んでいる」「週に1～3回程度読んでいる」と回答した層において、正答率が高くなっています。

→ 一般紙の内容は、小学生には理解が難しいため、頻度が低くなっているのではないかと推測されます。

(8) ICT機器の活用について

質問No.		・前の学年までに受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか				
小 35						
中 35						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	ほぼ毎日 (1日に複数の授業で活用)	41	55.4	67.4	63.1	
2	ほぼ毎日 (1日に1回くらいの授業で使用)	18	24.3	57.3	49.3	
3	週3回以上	10	13.5	63.8	61.3	
4	週1回以上	3	4.1	46.2	47.9	
5	月1回以上	0	0.0			
6	月1回未満	2	2.7	26.9	18.8	
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	ほぼ毎日 (1日に複数の授業で活用)	78	77.2	69.5	63.3	505
2	ほぼ毎日 (1日に1回くらいの授業で使用)	15	14.9	64.1	53.8	467
3	週3回以上	6	5.9	41.1	35.4	422
4	週1回以上	1	1.0	53.3	18.8	490
5	月1回以上	0	0.0			
6	月1回未満	1	1.0	33.3	12.5	403

・小・中学生ともに、「ほぼ毎日 (1日に複数の授業活用)」と回答した層の正答率が高くなっています。

・中学生の数学については、生徒がICT機器を積極的に活用する頻度に比例して、正答率は高くなる傾向が見られます。

(9) 授業に向かう姿勢について

質問No.	・前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか					
小 39						
中 39						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	当てはまる	22	29.7	68.2	64.5	
2	どちらかといえば、当てはまる	41	55.4	61.2	54.9	
3	どちらかといえば、当てはまらない	9	12.2	57.3	50.0	
4	当てはまらない	0	0.0			
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	当てはまる	29	28.7	69.4	72.8	539
2	どちらかといえば、当てはまる	53	52.5	69.0	58.8	494
3	どちらかといえば、当てはまらない	17	16.8	58.0	43.0	423
4	当てはまらない	2	2.0	33.3	18.8	398

・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に対し、「当てはまらない」と回答した児童生徒が少ないという傾向が見られ、「当てはまる」と回答した児童生徒の正答率は、高い傾向があります。

質問No.	・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか					
小 43						
中 43						
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率 (%)		
				国語	算数	
1	当てはまる	24	32.4	62.5	59.1	
2	どちらかといえば、当てはまる	36	48.6	65.2	59.9	
3	どちらかといえば、当てはまらない	10	13.5	54.6	44.4	
4	当てはまらない	3	4.1	64.1	75.0	
中学3年生 選択肢		生徒数 (人)	割 (%)	正答率 (%)・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	当てはまる	31	30.7	71.8	71.0	542
2	どちらかといえば、当てはまる	49	48.5	67.8	60.3	495
3	どちらかといえば、当てはまらない	18	17.8	58.8	43.4	423
4	当てはまらない	3	3.0	35.6	16.7	380

・小・中学生ともに、次時の学習について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる意識の高い児童生徒ほど、正答率は高くなる傾向が見られます。

質問No. 小 66 中 66	・前年度までに受けた授業では、算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか					
小学6年生 選択肢		児童数 (人)	割合 (%)	正答率（％）		
				国語	算数	
1	当てはまる	27	36.5	63.5	63.7	
2	どちらかといえば、当てはまる	25	33.8	57.8	51.3	
3	どちらかといえば、当てはまらない	16	21.6	68.8	55.5	
4	当てはまらない	6	8.1	60.3	63.5	
	中学3年生 選択肢	生徒数 (人)	割 (%)	正答率（％）・IRT		
				国語	数学	英語IRT
1	当てはまる	25	24.8	76.5	79.0	562
2	どちらかといえば、当てはまる	33	32.7	69.9	61.2	481
3	どちらかといえば、当てはまらない	27	26.7	61.3	52.5	470
4	当てはまらない	16	15.8	52.1	35.9	450

・小学生では、「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動」の頻度と正答率の間には、明確な相関関係は見られませんでした。

・中学生では、「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動」の頻度と正答率の間には相関関係が見られ、「当てはまる」と回答した生徒の正答率は高くなっています。

11 まとめと課題

士別市の小学生は、国語・算数ともに正答率が全国平均、全道平均を上回ったことは、全体的に当該学年で身に付けるべき資質・能力の基礎的・基本的内容の理解度や活用力が、おおむね身に付いていると捉えられます。しかし内容別では、国語は、「言葉の特徴や使い方に関する」内容で全国平均を若干下回り、算数では、「数と計算」「データの活用」の領域が全国平均を下回っています。

士別市の中学生も、国語・数学ともに正答率が全国平均・全道平均を上回っていますが、英語については正答数、IRTスコアともに全道とほぼ同様ですが、全国値を下回りました。内容別では、国語は、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の二つの内容別問題で、若干全国平均を下回りました。数学では、どの領域でも全国平均を上回りました。英語では、「聞くこと」「読むこと・書くこと」「話すこと」のすべての分野で、全国平均を下回りました。

「児童生徒質問紙」「学校質問紙」による学習状況の調査では、多くの質問項目から北海道教育委員会が『調査結果のポイント』で取り上げている質問項目について、士別市の結果と比較しています。ここでは、士別市では、ICTを活用した学習が日常的に行われていることが明らかになりました。

令和7年度は、「児童生徒質問紙」の回答により、「平日の家庭学習時間」が全国平均を大きく下回っていることが士別市の課題として掲げられました。令和8年度は、普段1時間以上勉強している児童の割合は、39.5%、生徒の割合は47.5%でした。令和7年度の割合を大きく増加しましたが、士別市は依然として、「平日の学習時間」については課題です。

「児童生徒質問紙」の質問項目と各教科の正答率を相関させたクロス集計では、ほぼ全国と同じ傾向が見られました。特に授業に向かう姿勢が積極的な児童生徒ほど、正答率が高くなる傾向が明らかになりました。詳しい内容は「9 質問紙調査の結果について」「10 クロス集計（児童生徒質問紙と各教科）について」を参照願います。

12 今後の対応

(1)今後の学習に向けて

調査教科(国語、算数・数学、英語)において特に課題傾向と考えられる学習内容について

【国 語】

小・中学校ともに、文章や資料から必要な情報を取り出すだけでなく、複数の情報を関連付けたり、文章全体の構成や段落の役割を捉えたりすることに課題が見られます。

二 林さんは、「文章」を読んで、筆者の考えを理解するために、部①、②、③について「林さんのメモ」のように整理しました。林さんはどのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

【林さんのメモ】

1 「苦手」「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、筆者の経験したことを結び付けて整理している。

2 「苦手」を「好き」と「きらい」の場合に矢印で分けて、自分の経験したことを結び付けて整理している。

3 「苦手」「好き」「きらい」の順に矢印で分けて、筆者の経験したことを結び付けて整理している。

4 「苦手」「好き」「きらい」の順に矢印で分けて、自分の経験したことを結び付けて整理している。

問題①・小学校

一 林さんは、文章全体を三つに分けてノットに整理しています。整理したものを、最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

段落の役割

問題②・中学校

問題①（小学校）は、文章中の情報を図などに整理し、情報と情報との関係を捉える問題です。正答率は49%で、全国・全道の平均値を5～6pt下回りました。誤答では、「苦手」を「好き」と「きらい」に分けて整理することはできているものの、それを筆者の経験したことを結び付けて捉えられていない解答（29%）が多く見られました。

今後の学習では、文章や資料にある複数の情報を関連付けて理解する学習活動を積極的に取り入れることが大切です。例えば、文章中の語句や情報を囲んだり線でつないだりしながら、どの情報がどの内容と関係しているのかを視覚的に整理する活動を通して、情報同士の関係を捉える力を養うことが効果的です。

問題②（中学校）は、文章全体を三つに分け、段落の役割を捉える問題です。正答率は68%で、全国・全道の平均値を4pt下回りました。誤答では、文章の中心的部分と付加的部分を叙述を基に捉えることに課題があり、段落の役割を誤って捉えている解答（22%）が多く見られました。

今後の学習では、各段落の内容を個別に捉えるだけでなく、文章全体の構成や段落相互の関係に着目して読むことが大切です。例えば、各段落の内容を短い言葉でまとめ、文章全体の中でどのような役割を果たしているのかを考える活動を取り入れることが考えられます。また、「話題の提示」「多様な例の紹介」「筆者の分析と考え」など、段落の役割を意識しながら、叙述を根拠として文章全体を捉える学習を積み重ねることが重要です。

【算数・数学】

小・中学校ともに、数や数量の意味を正しく捉え、数学的な根拠を基に考えたり、考えたことを説明したりすることに課題が見られます。

(1) 先月の入国者数は74291人でした。
74291を、千の位までのがい数で表します。百の位の数を四捨五入してできる数を、下の ア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 70000
イ 74000
ウ 74300
エ 75000

【ルール3】
①引いたカード3枚のうち、2枚を□に当てはめて分数をつくります。
②大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3 4 7 を引きました。

どちらの方が大きいかな。

7	7
3	4

たいが

$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下の ア から ウ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。
また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア $\frac{7}{3}$ の方が大きい。
イ $\frac{7}{4}$ の方が大きい。
ウ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

陸斗さんの予想
手順にしたがってできたAとBについて、
A+Bの値は、選んだ2数の和の111倍になる。

方針
① 選んだ2数を文字で表し、その文字を用いて、AとBをそれぞれ文字式で表す。
② A+Bを計算し、□の形に変形できることを示せば、陸斗さんの予想がいつでも成り立つといえる。

方針の□に当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア $111 \times (\text{整数})$
イ $111 \times (1 \text{ けたの自然数})$
ウ $111 \times (\text{選んだ2数の和})$
エ $111 \times (A \text{ と } B \text{ の和})$

問題③ 小学校

問題④ 小学校

問題⑤ 中学校

問題③（小学校）は、数を四捨五入して千の位までの概数で表す問題です。正答率は57%で、全国・全道の平均値を6～9pt下回りました。誤答では、千の位までの概数にする際に、千の位で概数にする解答（13%）や十の位で概数にする解答（25%）など、どの位の数に着目して四捨五入するのかを正しく捉えられていない解答が多く見られました。

今後の学習では、数の表し方や位取りの仕組みに着目し、四捨五入する位を正しく理解することが重要です。例えば、位取り表や数直線などを活用し、「どの位までの概数にするのか」「どの位の数を見て判断するか」を確認しながら、概数の意味を理解する活動が効果的です。

問題④（小学校）は、異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述する問題です。正答率は33%で、全国・全道の平均値を7～11pt下回りました。誤答では、分子が等しい場合の分数の大小について、分母の大きさと分数の大きさとの関係を誤って捉えている解答が多く見られました。

今後の学習では、分数の大小を正しく判断し、その理由を数や言葉を用いて説明する活動を充実させることが大切です。例えば、図や数直線などを用いて分数の大きさを視覚的に捉えた上で、「なぜこちらの分数の方が大きいのか」を友達に説明したり、根拠となる事柄を文章にまとめたりする活動を通して、数学的に考え、表現する力を養うことが重要です。

問題⑤（中学校）は、事柄がいつでも成り立つことを説明するための方針を立てる問題です。正答率は60%で、全国・全道の平均値を4～5pt下回りました。誤答では、具体的な数を使って確かめるだけでなく、選んだ二つの数を文字で表し、文字式を用いて予想が成り立つことを示すという方針を捉えることに課題が見られました。

今後の学習では、文字式を用いて一般的に説明する学習を充実させることが大切です。例えば、具体的な数で成り立つことを確認した後、「いつでも成り立つことを示すには何が必要か」を考え、説明の方針を立てる活動を取り入れることが効果的です。その上で、考えた方針に沿って文字式を用いて推論し、その過程を数式や言葉で表現できるようにする指導を充実させることが求められます。

【英語】

まとまりのある英語を聞いて話し手の要点を捉えることや、日常的な話題について、体験したことや感想を整理し、条件に沿ってまとまりのある文章を書くことに課題が見られます。

【たけるのスピーチ】



<解答欄>

- ☐ 1 Many people from different countries are living in our city.
- ☐ 2 We need to help people from abroad with many different languages.
- ☐ 3 Our city improved the website for people from abroad.
- ☐ 4 People from abroad can get useful information from the website.

問題
⑥

あなたは、中学生になってからの思い出(My Memory)を【英語新聞】にまとめることになりました。思い出を1つ取り上げ、「そこであなたが体験したこと」と「感想」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、思い出は下の【例】を参考にしてもかまいません。

【英語新聞】

My Memory

※ここには、あなたの思い出の
写真が入ります。

【例】

- ・ 学校行事
 - 文化祭 (the school festival)
 - 体育祭 (the sports festival)
 - 音楽祭 (the music festival)
 - 修学旅行 (the school trip)
 - 職場体験 (the work experience)
- ・ 授業
- ・ 習い事
- ・ 趣味
- ・ 日常の出来事
- ・ その他

問題
⑦

問題⑥は、住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを捉える問題です。正答率は51%で、全国・全道の平均値を5pt下回りました。誤答では、英語の音声聞き、文章全体の構成や要点を正しく捉えられていない解答が多く見られました。

今後の学習では、英語の音声を聞く際に、個々の単語や文を聞き取るだけでなく、話題や話の構成、話し手が最も伝えたいことに着目して聞くことが大切です。例えば、問題提起とその解決策など、話の流れを意識しながら聞き、聞き取った複数の情報を比較したり、情報同士の関係を整理したりする活動を取り入れることが効果的です。

問題⑦は、中学生での思い出の一つを取り上げ、そこで体験したことと感想を書く問題です。正答率は33%で、全国・全道の平均値を10～14pt下回り、無回答率も14%と高い結果でした。誤答では、体験したことを書くことはできているものの、その感想を書けていないものや、指定された語数に達していないものが多く見られました。

今後の学習では、日常的な話題について、伝えたい内容を整理した上で、目的や条件に沿ってまとまりのある文章を書く活動を充実させることが大切です。例えば、「いつ・どこで・何をしたのか」「そのときどう感じたのか」など、書くために必要な情報を整理してから英文を書く活動を取り入れることが考えられます。また、書いた文章について、必要な内容が含まれているか、条件を満たしているかを確認し、書き直す活動を通して、目的や条件に応じて表現する力を養うことが重要です。

(2)授業改善へのヒント

【国語の学習】

- ①複数の情報を関連付けて理解する学習を充実させる。
例) 語句や情報を囲んだり線で結んだりし、情報同士の関係を整理する。
- ②文章全体の構成や段落の役割を捉える学習を進める。
例) 各段落を短くまとめ、文章全体での役割を考える。
- ③叙述を根拠として、自分の考えを説明する学習を積み重ねる。
例) 文章中の言葉や表現を根拠に、自分の考えを説明する。
- ④情報を整理した結果を、言葉や図などを用いて表現する力を育てる。
例) 情報を表や図に整理し、情報同士の関係を自分の言葉で説明する。
- ⑤文章の構成を意識して読む習慣を身に付ける。
例) 段落の内容だけでなく、その役割を考えながら文章を読む。
- ⑥読む活動と書く・話す活動を関連付け、理解したことを表現する学習を進める。
例) 文章の構成や段落の役割を整理し、根拠を短くまとめたり、友達に説明したりする。

【算数・数学の学習】

- ①数の表し方や位取りの仕組みに着目して考える学習を充実させる。
例) 位取り表や数直線を使い、四捨五入で着目する位を考える。
- ②基準量、比較量、割合の関係を、言葉や図、式と関連付けて捉える力を育てる。
例) 基準量と比較量を確認し、テープ図に数量の関係を表す。
- ③数量の関係を図や数直線などに表し、数学的な意味を理解する学習を進める。
例) 図や数直線で分数の関係を表し、その結果を数や言葉を用いて説明する。
- ④答えだけでなく、「なぜそう考えたのか」を説明する学習を充実させる。
例) 図や式などを根拠として、自分の考えを友達に説明したり、文章にまとめたりする。
- ⑤具体的な数から規則を見付け、一般的に成り立つことを説明する学習を進める。
例) 具体的な数で規則を確かめ、文字式を用いて説明する。
- ⑥数学的な事柄を説明する際に、まず方針を立てる習慣を身に付ける。
例) 証明や説明の問題では、何を示すかを整理し、方針を立てて数式や言葉で説明する。

【英語の学習】

- ①まとまりのある英語を聞き、話題や要点を捉える学習を充実させる。
例) 説明を聞き、話題や話し手の要点を整理する。
- ②英語を聞く際に、文章全体の構成を意識する習慣を身に付ける。
例) 話の流れを意識しながら聞き、聞き取った情報を順序や関係に沿って整理する。
- ③聞き取った複数の情報を比較し、話し手の意図や要点を考える学習を進める。
例) 聞き取った情報を比較し、要点とその理由をペアやグループなどで伝え合う。
- ④既習の語彙や文法事項を実際のコミュニケーションの場面で活用する学習を充実させる。
例) 過去の出来事を伝える場面を設定し、英文で読んだり、書いたりする。
- ⑤伝える内容や必要な情報を整理してから、英文を読んだり、書いたりする学習を進める。
例) 書く内容をメモや表などに整理し、まとまりのある英文を書く。
- ⑥書いた英文を読み返し、目的や条件に合っているか確認して書き直す活動を取り入れる。
例) 書いた英文の時制や語順、語数を確認し、友達と読み合ったり書き直したりする。

13 おわりに

本市の児童生徒は、全国学力・学習状況調査において全国平均値を上回る成果を示し、課題に粘り強く取り組む姿勢が着実に育まれてきています。これは、日々の授業改善や教職員の不断の努力、そして地域や家庭のご理解とご協力の賜物です。

しかし一方で、学習意欲や自己肯定感に課題を抱える子どもも少なくなく、単なる学力向上にとどまらず、「学ぶことの楽しさ」や「自分を認める心」をいかに育んでいくかが、今後の大きな課題となっています。

各学校においては、全国や全道との比較に加えて、自校の成果と課題を正しく省察し、教育活動に反映していくことが求められます。特に、生活経験や社会的事象をもとに課題を設定し、興味・関心の高まる中に基礎・基本の定着を図ったり、学びをもとに課題を解決し社会参画への意欲を高めたりするなど、社会の一員としての資質能力を育むこと、また義務教育9年間を通じて学びの連続性を大切にしたい取組も大切な視点です。さらに、一人一人の子どもをよく観て、学習を苦手とする子どもへの丁寧な指導・支援と人的・物的な学習環境の整備や学校のウェルビーイングの向上への組織的な取組が重要です。

教育委員会は、士別市まなびフォーカスでお示ししているとおり、「学校・家庭・地域が一体となって子どもの学びを引き出す・守る・広げる」取組を推進していきます。

ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な推進を図るとともに、教職員研修や学校訪問を通じて授業改善を支援してまいります。令和8年度は、士別南小学校、士別南中学校で、「こどもまんなか学び創出事業」（北海道教育委員会）に取り組んでいます。本事業の実践から得られた指導方法の工夫等を市内学校全体へ広げるなどし、子どもの学びを一層引き出していきます。

合わせて、学校の働き方改革を推進していく中で、教員が子どもと向き合う時間を確保します。いじめ防止、不登校対策についての未然防止の取組や早期認知、早期対応の取組を充実させ、子どもの学び守ります。また士別市にご縁のある企業のご協力を得ながら、「ものづくり体験教室」や「陸上教室」などを実施するとともに、地域資源を活かしたキャリア教育やふるさと教育を充実させ、子どもたちが将来に希望をもち、自らのよさや可能性を見出すことができる環境を整えていきます。さらには、家庭教育支援事業や「士別ふるさと体験広場」「チャレンジ寺子屋」などの取組を生かし、社会教育との連携を強化し、子どもの学びを広げます。

こうした取組を通じ、「自分のよさや可能性を見付け、自らの人生を舵取りできる子ども」の育成に、全力で指導・支援してまいります。

【参考ホームページ】

令和8年度全国学力・学習状況調査の報告書・集計結果について（国立教育施策研究所）

<https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/>

令和8年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイント（北海道教育委員会）

<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gks/265410.html>